

### 第三者評価結果入力シート（自立援助ホーム）第5期受審期

種別	自立援助ホーム
①第三者評価機関名	
(一社)あいおらいと	
②評価調査者研修修了番号	
SK2025056	
S2024056	
③施設名等	
名称	自立援助ホーム若葉
施設長氏名	川西 悦子
定員	6名
所在地(都道府県)	兵庫県
URL	https://www.wakaba2021.com/
【施設の概要】	
開設年月日	2022/1/20
経営法人・設置主体(法人名等)	一般社団法人 若葉
職員数 常勤職員	3名
職員数 非常勤職員	12名
有資格職員の名称(ア)	小学校教員免許一種
上記有資格職員の数	1名
有資格職員の名称(イ)	児童指導員
上記有資格職員の数	1名
有資格職員の名称(ウ)	社会福祉士
上記有資格職員の数	1名
有資格職員の名称(エ)	臨床心理士・公認心理士
上記有資格職員の数	1名
施設設備の概要(ア)居室数	居室4、事務所、リビング、台所、洗面所2、トイレ2、風呂1
④理念・基本方針	
理念	子ども達のありのままを受け入れる。
指針	①安全・安心して生活できる居場所を提供し、自分なりの目標をみつけられるように支援していく。 ②社会に出てからも経済的、精神的に自立して生活が送れるように自立支援担当職員が支援を行っていく。
⑤施設の特徴的な取組	
自立援助ホーム若葉は、閑静な住宅街にある一軒家で家庭的な雰囲気ホームです。利用者が安心して生活できるほっこりとした居場所づくりを大切に、温かい関係の中で自立に向けた支援に努めています。若葉が大切にしていることVision Mission Promiseの支援の過程とし「まず、その人らしさを受け入れること」を支援の出発点としています。安心して失敗や挑戦を繰り返せる環境を整え、小さな希望や目標を持てるように寄り添いながら見守ります。そして、自らの力で人生を切り拓き、自己実現へとつながるよう支援に努めます。退所後も本人が希望する限り、継続的な相談支援や生活支援を行い、安心して地域生活を送ることができるよう支えています。	
⑥第三者評価の受審状況	
評価実施期間(ア)契約日(開始日)	2026/4/1
評価実施期間(イ)評価結果確定日	2026/6/18
前回の受審時期(評価結果確定年度)	-

⑦総評

<p>&lt;評価の高い点&gt;</p> <p>1 支援の質の向上への取組 この度、自立援助ホームとして先駆的に第三者評価を受審したことは高く評価できます。今後は、今回の評価結果を活かし、これまでの施設運営や支援を振り返るとともに、明らかになった課題の改善に取組み、継続的な支援の質の向上につなげていくことを期待します。</p> <p>2 施設長のリーダーシップ 施設長は、子どもが安全・安心に生活できる、大家族のような温かい居場所づくりを目指しています。また、職員の模範としてリーダーシップを発揮しています。さらに、地域とのつながりを大切に、イベントや講演会への参加・開催を通じて、地域づくりに貢献する活動に積極的に取組んでいます。</p> <p>3 子どもの主体性を尊重した支援 入所にあたっては、事前に見学や体験入所の機会を設け、「若葉のしおり」を用いて生活内容やルールを丁寧に説明し、本人の理解と同意を得たうえで契約を行っています。自立支援計画は、子どもの意見や希望を十分に聴きながら策定され、進路選択や就労、金銭管理などについても自己決定を尊重した支援が行われています。</p> <p>&lt;今後に期待する点&gt;</p> <p>1 権利擁護体制と被措置児童虐待防止の体制整備 利用者に対する不適切な関わりの防止等は、入所時に文書を用いて説明するとともに、問題が生じた際には弁護士に相談や苦情の申立てができるようにしています。しかし、被措置児童虐待の防止や権利擁護に関する職員研修、理解促進に向けた取組は十分とはいえない状況であり、今後は、研修や体制整備を進めることが必要です。</p> <p>2 期待する職員像の明確化 施設は開設4年目を迎え、毎月の職員会議で支援の振り返りを行うとともに、入所者の意見も取り入れながら、継続的な質の向上に取組んでいます。今後は、「自立援助ホーム若葉」が求める職員像を明確にすることで、組織の人材育成や体制の強化につながることを期待します。</p> <p>3 中長期計画の策定 この度、初めて第三者評価を受審したことで、施設の強みや課題がより明確になりました。今後は、今回の評価結果を踏まえて中長期的な視点に立った計画を策定し、毎年度の事業計画等の充実を図ることで、さらなる支援の質の向上につながることを期待します。</p>
---

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

<p>今回初めて第三者評価を受審させて頂きました。全項目にわたり丁寧に話をして頂き、ありがとうございました。具体的に課題やホームのあり方を助言して下さり大変参考になりました。これから子ども達のために職員が協力し支援しながら、さらなる質の向上を目指し頑張っていこうと思います。 この度は大変貴重な経験ができたこと感謝しております。ありがとうございました。</p>
--

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（自立援助ホーム）

共通評価基準（45項目） I 福祉サービスの基本方針と組織

1 理念・基本方針

<p>(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。</p>	<p>第三者 評価結果</p>
<p>① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p>	<p>b</p>
<p>【コメント】 「子ども達のありのままを受け入れる」を理念とし、パンフレットに掲載している。理念は、法人の目指す方向を読み取ることができる。しかし、理念を達成するための基本方針や職員への周知が十分ではなく、今後、法人の理念との整合性のある取組に期待する。</p>	

2 経営状況の把握

<p>(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。</p>	<p>第三者 評価結果</p>
<p>① 2 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p>	<p>c</p>
<p>【コメント】 事業経営をとりまく環境と経営状況については、毎月の職員会議でコストや利用者の推移、利用率等の分析を行っている。しかし、地域の各種福祉計画や社会福祉事業全体の動向については、具体的な把握と分析はしていない。</p>	
<p>② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。</p>	<p>b</p>
<p>【コメント】 経営課題として、事務業務の増加により職員の負担が大きく、子どもへの直接支援に十分な時間を確保できない状況がある。現在、この課題については理事と継続的に協議を行っている。今後、他施設との情報共有や意見交換を通じて運営上の課題や改善策の検討に期待する。</p>	

### 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c
【コメント】 中・長期的なビジョンを明確にした計画はない。今後、理念の実現に向けた目標（ビジョン）を明確にした中・長期の計画の策定に期待する。	
② 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c
【コメント】 単年度の具体的な計画がなく、今後、策定が必要である。	
(2) 事業計画が適切に策定されている。	
① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	c
【コメント】 現在、明確な事業計画はなく、今後、支援の質の向上のための事業計画を策定し、職員への周知や定期的な見直しが行える事業計画の策定が必要である。	
② 7 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	c
【コメント】 事業計画は、利用者等に周知されていない。	

### 4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
① 8 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	c
【コメント】 福祉サービスの質の向上に向け、毎月の職員会議で支援の振り返りを行い、入所者の意見も取り入れながら改善に努めている。また、法人全体で質の向上に取組んでいる。第三者評価の受審は今回が初めてであり、今後も継続的な取組が期待される。	
② 9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	c
【コメント】 第三者評価の受審は今回が初めてであり、今後も毎年の自己評価や継続的な第三者評価の受審を行い支援の質の向上に期待する。	

## II 施設の運営管理

### 1 管理者の責任とリーダーシップ

(1) 管理者の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
① 10 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
【コメント】 施設長は、理念や支援方針を職員会議で自らの責任と役割を示している。現在、簡易な事務分担表があるが、今後、各業務の内容を記載したよりわかりやすい分担表を作成し職員への周知に期待する。	
② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
【コメント】 施設長は、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組として、国や県の会合、研修や勉強会に参加している。	
(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	
① 12 質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
【コメント】 施設長は、職員会議や日々の業務を通じて全体的・個別的な課題の把握に努めるとともに、職員に対して研修への積極的な参加を促している。また、自らも自己研鑽に励み、専門性の向上に努めるなど、職員の模範としての役割を果たしている。	
② 13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
【コメント】 施設長は、経営改善や業務の実効性向上に向けて取組んでいる。また、職員の就業環境の改善にも配慮し、働きやすい職場づくりと組織運営の向上に努めている。	

## 2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果
① 14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
【コメント】 必要な福祉人材の確保・定着に向け、人員体制の充実に努めている。今後は、計画にもとづいた福祉人材の確保や育成に期待する。	
② 15 総合的な人事管理が行われている。	b
【コメント】 職員や利用者が立場にとらわれず対等に話し合える環境づくりに努めるとともに、職員一人ひとりの意向や意見を尊重した人事管理を行っている。今後は、法人理念の実現に向け、「期待する職員像」を明確にし、組織的な人材育成につながることに期待する。	
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	
① 16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
【コメント】 複数職員による配置体制を整え、有給休暇や連続休暇を取得しやすい職場づくりに努めている。また、職員のワーク・ライフ・バランスに配慮し、できるだけ働きやすい職場の環境づくりに努めている。	
(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	
① 17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
【コメント】 職員会議等を活用して対話を重ねながら業務の振り返りを行っている。今後は、組織の事業計画をより明確にし、職員一人ひとりの目標設定や人材育成につなげることに期待する。	
② 18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	c
【コメント】 業務に関連する必要な研修について、全国・県内の外部研修等を受講している。受講した研修は報告書にまとめて記録している。今後は、「年間研修予定」の明確化を図り、職員一人ひとりの見通しが持てるような計画の作成に期待する。	
③ 19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
【コメント】 研修への参加は主に施設長が担っているが、今後は職員の研修の参加機会を拡充し、職員のスキルアップなどさらなる向上につなげることを期待する。	
(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	
① 20 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	c
【コメント】 実習生は受け入れていない。	

## 3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	c
【コメント】 ホームページでは、事業や活動・自立援助等が掲載されている。今後、事業計画、事業報告、予算、決算情報の公開に期待する。	
② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
【コメント】 公正かつ透明性の高い経営・運営を目指し、労務や会計に関しては社会保険労務士や司法書士、税理士等の専門家に相談しながら、適正な施設運営に取り組んでいる。	

#### 4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
① 23 利用者地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
【コメント】 地域住民とのコミュニケーションを図りながら、利用者の特性に配慮しつつ季節の行事等へ参加している。今後、地域との交流を継続的に推進していくことが期待される。	
② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
【コメント】 ボランティアの受け入れ方針を明文化していないが、利用者との交流を図る視点等で必要な支援等を行っている。	
(2) 関係機関との連携が確保されている。	
① 25 事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
【コメント】 入所者の利益を図るため、関係機関との連携を進め、必要な社会資源のネットワーク化に取り組んでいる。また、退所後も継続してつながりを持ち、個々のニーズに応じた支援を行っている。	
(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	
① 26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
【コメント】 法人の関係団体の活動に参加するとともに、自治会等を通じて地域との情報共有に努めている。また、ホームページを通して相談や問い合わせに対応している。	
② 27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
【コメント】 地域とのコミュニケーションを大切にし、イベントや講演会等への参加・実施を通じて、地域づくりに貢献する活動を行っている。	

### Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

#### 1 利用者本位の福祉サービス

(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果
① 28 利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
【コメント】 職員が利用者の人権尊重を常に意識し、共通理解を図るよう努めている。また、職員会議等で適宜話し合いを行い、人権尊重に関する理解の取組を進めている。今後、さらに利用者を尊重した福祉サービスの提供に関する「倫理綱領」や規程等の策定に期待する。	
② 29 利用者のプライバシー保護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	a
【コメント】 居室は二人部屋であるが、中間に仕切りを設けるなど、プライバシーに配慮した生活空間の確保に努めている。また、衣食住に関しては、利用者本人の意思を最大限尊重した支援を行っている。今後は、プライバシー保護に関する規程や仕組みのさらなる充実に期待したい。	

(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
①	30 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	a
【コメント】 利用希望者に対し、入所前に児童相談所で面会を行い、ホームでの生活や支援内容について説明している。また、見学や体験入所の機会を設けるとともに、「若葉のしおり」や契約書を用いて、福祉サービスの選択に必要な情報を分かりやすく提供している。		
②	31 福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	a
【コメント】 「若葉のしおり」や契約書を用いてサービス内容を説明し、利用者の自己決定を尊重した入所支援を行っている。また、入所後は利用者とともに自立支援計画を作成し、主体的な生活の実現に向けた支援に努めている。		
③	32 福祉サービスの内容や事業所の変更、地域・家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a
【コメント】 退所にあたっては、福祉サービスの継続性に配慮した支援が行えるよう、自立支援担当者が相談対応している。また、必要に応じて行政機関等と情報共有を行い、切れ目のない支援に努めている。		
(3) 利用者の満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
①	33 利用者の満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
【コメント】 利用者の満足を図ることを目的に、入所者と職員による「若葉会議」を開催し、利用者の意見を踏まえながらルールの見直しや改善を行っている。また、必要に応じて個別対応も実施している。今後は、利用者の満足に関する取組が定期的・継続的に行われることに期待したい。		
(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
【コメント】 入所者からの苦情や要望は日報に記録し、職員会議等で共有・検討することで迅速な対応に努めている。また、第三者苦情受付窓口を設置し、入所時に連絡方法を説明するなど、利用しやすい相談体制を整えている。今後は、苦情解決の流れについてホーム全体でわかるような工夫が必要である。		
②	35 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a
【コメント】 利用者が相談や意見を述べやすいよう、相談する職員や場所を自由に選べる環境を整えている。また、通院時や誕生日等の外食の機会を通じて関係性を深める機会を設け、利用者が安心して思いを伝えられるよう努めている。		
③	36 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	c
【コメント】 日頃から利用者が相談しやすく、話しやすい環境づくりに努めている。今後は、相談や意見への対応に関する記録方法や報告手順、対応策の検討等を定めたマニュアルを整備し、ホーム全体で共有することに期待する。		
(5) 安心・安全な福祉サービスの実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な福祉サービスの実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
【コメント】 安心・安全な福祉サービスの提供に向け、防災訓練や地震発生時には電話による安否確認を行う体制を整えている。今後は、リスクマネジメントに関する具体的かつ詳細なマニュアルの整備・充実を期待したい。		
②	38 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
【コメント】 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保に向けた管理体制を整備している。また、看護師資格を有する職員の助言を得ながら、マニュアルの整備や見直しにも取り組んでいる。		
③	39 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的にしている。	b
【コメント】 災害時は施設長の指示のもと対応を行い、入所者や退所者の安否確認する体制を整えている。また、食料や備品類の管理も行っている。今後は、備蓄品の定期的な点検・確認や、安否確認の方法を宿直職員を含む全職員への周知の徹底に期待する。		

## 2 福祉サービスの質の確保

(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
① 40 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが実施されている。	b
【コメント】 標準的な実施方法については、周知の必要性が高い内容は回覧し、職員への共有を図っている。しかし、十分に浸透しているとは言えない状況も見られる。今後は、標準的な実施方法を全職員に周知・徹底するための取組の充実に期待する。	
② 41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
【コメント】 自立支援計画は状況に応じて見直しを行い、必要に応じて作成している。今後は、標準的な実施方法の検証・見直しを行う仕組みや手順を明確化し、継続的な改善につなげることを期待したい。	
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。	
① 42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
【コメント】 利用者との面談をはじめ、児童相談所、医療機関、学校等の関係機関と連携しながらアセスメントを行い自立支援計画を策定している。また、支援困難ケースについても検討を重ね、適切な支援に努めている。今後は、自立支援計画の書式やアセスメント手法を明確にし、より適切なアセスメントにつなげることを期待したい。	
② 43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
【コメント】 自立支援計画については、年に3回面談を行い、必要に応じて見直している。今後は、自立支援計画の内容を、関係職員に周知するなどの手順についての明確化に期待する。	
(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。	
① 44 利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
【コメント】 利用者に関する福祉サービスの実施状況は、パソコンの管理システムを活用して記録・管理し、支援内容や利用者情報を職員間で共有している。今後は、記録内容や書き方に職員間で差異が生じないように、記録の指導を充実させ質の向上を図ることを期待したい。	
② 45 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	b
【コメント】 個人情報保護規程等により、利用者の記録の保管・廃棄等に関するルールを定めている。また、利用者の記録や個人情報は鍵付きロッカーで管理している。今後は、個人情報保護に関する職員研修や教育の充実を図るとともに、個人情報の取扱いについて利用者等への周知を進めることに期待する。	

### 内容評価基準（24項目）

#### A-1 利用者の権利擁護、最善の利益に向けた支援

(1) 利用者の尊重	第三者 評価結果
① A1 入居に際して、事業所での生活や約束ごとを説明し、利用者がよく理解したうえで、自らの意思によって入居申込みができるよう配慮している。	a
【コメント】 事前の見学や体験入所に対応し、入居時には「若葉のしおり」を用いて生活内容やルールを説明している。また、本人の理解を確認したうえで契約を行うとともに、入所初日はウェルカムディナーを提供するなど、新たな生活への不安や緊張の軽減に配慮している。	
② A2 利用者の権利擁護に関する取組が徹底されている。	b
【コメント】 権利擁護については、生活のしおりに尼崎市の「子どものための権利擁護委員会」のホームページや連絡先が記載されている。また、苦情の受付窓口を外部の弁護士に委託している。今後、権利擁護についての具体的な規程やマニュアルを整備し、職員への周知を図ることが必要である。	
③ A3 職員との適切な関係を通し利用者の自尊心が育まれ、自他の権利を尊重できるよう支援している。	a
【コメント】 利用者との信頼関係の構築に向け、日常的な声かけや対話を大切にしている。また、話しにくい内容については通院等の外出時を活用するなど、利用者が安心して相談できる環境づくりに努めている。	
④ A4 出生や生い立ち、家族の状況等をふまえ、利用者自身が、どのように生きるかを考えるための支援をしている。	b
【コメント】 利用者の出生や生い立ち、家族の状況を踏まえ、自身の将来について考えられるよう支援している。また、生い立ちの整理が必要な場合は、児童相談所と連携しながら対応しているが、現状として子どもの年齢も高く積極的な取組はしていない。	
(2) 被措置児童等虐待の防止等	
① A5 利用者に対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	c
【コメント】 利用者に対する不適切なかかわりの防止策として、入所時に文書を用いて説明するとともに、問題が生じた際には窓口である弁護士へ苦情を申し立てることができる。しかし、被措置児童虐待の防止に関する職員研修や理解促進のための具体的な取組は十分とはいえず、今後は継続的な研修や体制整備が期待される。	

(3) 主体性、自立性を尊重した日常生活		
①	A6 利用者自身が自らの生活全般について考え、主体性をもって生活ができるよう支援している。	b
【コメント】 利用者の意見を踏まえたルールの見直しや改善を行っている。また、個別対応を通じて利用者の目標達成を支援している。しかし、話し合いについて職員間の共有が十分ではなく、共通理解を深める取組が期待される。		
(4) 支援の継続性とアフターケア		
①	A7 退居後の生活の計画が作成され、利用者と退居後の生活を話し合ったうえで退居を決定している。	a
【コメント】 退所後の生活を見据え、自立支援担当者を中心に本人と話し合いながら必要な支援を行っている。また、退所後も相談や来所しやすい関係を維持し、継続的なアフターケアに取り組んでいる。		
②	A8 利用者が安定した社会生活を送ることができるよう退居後も必要に応じて継続的な支援を行っている。	a
【コメント】 退所後も相談支援を継続し、必要に応じて精神的・経済的な支援を行っている。また、「若葉イベント」への参加を呼びかけや入所者との交流の機会を設けるなどしている。さらに、退所者の状況に応じて行政等の関係機関と連携しながら支援を行っている。		

## A-2 支援の質の確保

(1) 支援の基本		第三者 評価結果
①	A9 利用者との信頼関係を構築するために、受容的・支持的な関わりを行っている。	a
【コメント】 利用者との信頼関係の構築に向け、日常的な対話と寄り添った支援を行い、安心して相談できる環境づくりに努めている。		
②	A10 利用者の発達段階や課題に考慮した援助を行っている。	a
【コメント】 利用者一人ひとりの特性を理解した上で適切な対応に努めている。また、判断に迷う場合は、心理士から助言を受けるなど、専門的な視点を取り入れながら支援を行っている。		
③	A11 利用者の力を信じて見守るという姿勢を大切にし、利用者が自ら判断し行動することを保障している。	b
【コメント】 利用者の主体性を尊重し、自らできることは自身で取組むよう支援している。また、つまづきや失敗の経験も成長の機会と捉え、自立に向けた支援を行っている。しかし、職員によっては必要以上に指示を行う場面も見られる。		
④	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう支援している。	b
【コメント】 日常生活を通して、基本的な生活習慣や社会常識などの生活技術が身につくよう支援している。一方で、支援内容や生活上のルールの運用に職員間で差がみられる場合もあるため、今後は生活の決まりや約束事について再検討し、支援の統一を図ることが期待される。		
(2) 食生活		第三者 評価結果
①	A13 バランスのとれた食事に配慮し、食卓が安心感を得ることのできる場所となるよう配慮している。	a
【コメント】 食事は職員の手作りを基本とし、栄養バランスや季節の食材を取り入れるとともに、家庭菜園で収穫した野菜も活用している。また、利用者ごとに食事時間が異なる場合でも、適温で提供できるよう配慮している。		

(3) 衣生活	第三者 評価結果
① A14 衣服は清潔で、TPOに応じたふさわしい服装となるよう助言している。	b
【コメント】 衣服の清潔保持やTPOに応じた適切な服装について助言を行っている。しかし、利用者の特性により対応が難しい場合もあるが、日頃から身だしなみやおしやれに対する意向を尊重しながら支援している。また、被服費を年2回支給している。	
(4) 住生活	第三者 評価結果
① A15 居室等事業所全体を、生活の場として安全性や快適さに配慮したものにしている。	b
【コメント】 利用者が安心して快適に生活できる環境づくりに努めている。共有スペースの清潔保持や居室の整理整頓について適宜声かけを行い、生活環境の維持に取り組んでいる。しかし、居室については2人部屋でもありくつろげる環境の確保が困難な場合もある。	
(5) 健康管理	第三者 評価結果
① A16 利用者一人ひとりが心身の健康を自己管理できるよう支援するとともに、必要がある場合は医療機関等と連携して適切に対応している。	b
【コメント】 利用者の睡眠や食事などの日常生活の状況や健康状態を把握し、心身の変化に配慮しながら支援を行っている。また、必要に応じて医療機関への同行や受診勧奨を行っている。一方で、危険物の取扱いや危険な場所・行為から身を守るための安全教育や指導については、さらなる充実が期待される。	
(6) 性に関する教育	第三者 評価結果
① A17 他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
【コメント】 性に関する正しい知識や理解を深めるため、職員及び利用者を対象に外部講師による講義を開催した。しかし、年齢、発達状況に応じたカリキュラムなどは整備していない。	
(7) 行動上の問題への対応	第三者 評価結果
② A18 利用者の暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、組織全体で適切に対応している。	b
【コメント】 現在、利用者の行動上の顕著な問題は見られていないが、不適切な行動があった場合には、背景を把握し、関係機関と連携しながら適切に対応する体制はある。	
(8) 心理的ケア	第三者 評価結果
① A19 心理的ケアが必要な利用者に対して心理的な支援を行っている。	b
【コメント】 心理的ケアが必要な利用者に対しては、外部の心理士による面談の機会を設けている。また、心理士から助言を受けながら、適切な支援となるようにしている。	
(9) 社会生活支援（進路支援、社会経験等）	第三者 評価結果
① A20 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
【コメント】 利用者の進路の自己決定を支援するとともに、奨学金や助成金を活用し、関係機関と連携しながら支援を行っている。	
② A21 進学を希望する利用者に学習環境を整備し、学力に応じた学習支援を行っている。	a
【コメント】 進学を希望する利用者や学力の向上が必要な利用者に対しては、学習塾の利用を支援している。また、奨学金や助成金の申請を支援し、安心して学業を継続できるよう努めている。	
③ A22 自立に向けて就労支援に取り組んでいる。	b
【コメント】 利用者の自立に向け、就労に必要な社会人としてのルールや生活習慣について入所時から説明を行っているが十分ではない。また、履歴書の作成や面接の練習を行うとともに、就労先との連携にも努め、安定した就労につながるよう支援している。	
④ A23 金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう援助している。	a
【コメント】 金銭管理などの経済観念を身につけられるよう、自立支援計画の策定・見直しの際に年間の資金計画を立てている。また、月々の収支を意識できるよう指導を行い、自立に向けた金銭管理を支援している。	
(10) 家族とのつながり	第三者 評価結果
① A24 本人の意思を尊重しながら利用者と家族との関係調整に取り組んでいる。	a
【コメント】 利用者と家族との関係調整は、本人の意向を尊重しながら、職員や児童相談所と情報共有を行い、関係の改善や維持に向けた支援に取り組んでいる。また、外出や外泊についても、児童相談所と連携しながら判断・対応している。	